リーディングDXスクール事業 【実践事例】

岩沼市立岩沼北中学校（宮城県）【指定校】

【取組内容】 ルーブリックの活用による学習状況の可視化と自己調整力の育成

【概要】
本校では、ルーブリックを作成し授業で生徒と共同編集して活用することで、教員は生徒の学習の様子をリアルタイムに把握することが可能になり、生徒は見通しをもって学習に取り組むことにつながっています。

【使用するアプリ 等】
Googleスプレッドシート、Google Classroom、生成AI

【活用の流れや工夫点、生徒の様子 等】
- ルーブリックには、「単元の目標」「単元の評価基準」「単位時間での目安の学習内容」等の項目を提示し、単元での「自分の目標」「単位時間の目標」、「振り返り」について生徒が入力をします。
- ルーブリックは単元毎に作成し、単元の初めの時間に学習の進め方や評価について生徒と確認をします。
- クラウドを活用し生徒と共同編集したことで、教師からは「生徒の状態を把握しやすい」「良い気付きを生徒に紹介しやすくなった」といった声が寄せられています。
- 生徒アンケートからは「どんな内容を次にするかわかるから、どんな視点をもって取り組めばよいかがわかりやすい」「評価の基準が分かり、目指すところが明確になった」という感想が寄せられています。
- 生徒が入力するタブの複製に当たっては、生成AIを活用してスクリプトを作成したことで、ルーブリックの作成時間短縮につながっています。

数 学

	第	5	章	平面図形			17	時間扱い
単元の目標	図形の移動を理解し、基本的な作図ができるようにしよう。							
自分の目標	図形の移動の仕方を覚え、色々な作図の仕方を覚える。							

全体の評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	・平行移動，対称移動及び回転移動について正確に理解している。 ・平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を正確に理解している。 ・角の二等分線，線分の垂直二等分線，垂線などの基本的な作図の方法を正確に理解している。 ・おうぎ形の弧の長さと面積を正確に求めることができる。	・図形の移動に着目し，２つの合同な図形の関係について数学の用語を用いて正確に説明できる。 ・線対称な図形の性質をもとにして，基本的な作図の方法を論理的に説明できる。 ・図形の移動や基本的な作図を具体的な場面で最も適切な方法で活用できる。	・平面図形の性質や関係を捉えることの必要性と意味を進んで考えようとしている。 ・平面図形について学んだことを生活や学習に進んで生かそうとしている。 ・図形の移動や基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返ってより良い方法を検討しようとしている。
B	・平行移動，対称移動及び回転移動について理解している。 ・平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。 ・角の二等分線，線分の垂直二等分線，垂線などの基本的な作図の方法を理解している。 ・おうぎ形の弧の長さと面積を求めることができる。	・図形の移動に着目し，２つの合同な図形の関係について説明できる。 ・線対称な図形の性質をもとにして，基本的な作図の方法を説明できる。 ・図形の移動や基本的な作図を具体的な場面で活用できる。	・平面図形の性質や関係を捉えることの必要性と意味を考えようとしている。 ・平面図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・図形の移動や基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

時間	日付	学習内容	今日の目標（各自で記入）	振り返り①【学習姿勢】学習態度と準備物	振り返り②【学習内容】分かったことや、大事だなと思った考え方、疑問に思ったこと について	振り返り③【学習方法】時間配分、友達との協働、情報収集の方法選択したツール について
1時間目	11/7	・バッチワークの模様を合同な図形でしきつめられているとみたり，１つの図形を移動させて正六角形の模様をつくったりする。	平行移動を覚える。	B	全ての点を同じ角度に同じ長さに線を引っ張る。そしてその点を全て繋げると同じ図形を平行に動かせるということがわかった。	友達と協力して解けた。
2時間目	11/11	・正六角形の模様の中の２つの図形の関係を移動の見方で観察し，平行移動について知る。 ・平行移動の性質をもとにして，ある図形を平行移動させた図形をかく。 ［用語・記号］直線ＡＢ，線分ＡＢ，半直線ＡＢ，△ＡＢＣ，平行移動，//	記号の意味を覚える。	A	直線は限りなくどこまでも続く線のこと。線分業がキリがある線のこと。半直線はどちらかが限りがあり、どちらかが限りがなくどこまでも続く線のこと。ということがわかった。また、線の長さが同じは=、平行という記号は//になるということもわかった。	一人で黙々と解くことができた。また、解説を頼まれた時人の解説をもとにしながら自分の解説も加えてわかりやすく教えることができた。
3時間目	11/12	・正六角形の模様の中の２つの図形の関係を移動の見方で観察し，回転移動について知る。 ・回転移動の性質をもとにして，ある図形を回転移動させた図形をかく。 ・点対称な図形を回転移動の見方で捉える。［用語・記号］回転移動，回転	回転移動を覚える。	A	回転移動は、回転の中心を中心に回転させることということがわかった。また、どこを中心に何度でどちらの方向に回転するのかということを書くと完璧な回答になる。	なるべく早く解けるように一問当たりみんなの時間の半分の時間で解けるようにというふうに自分で目標を立てた。

英 語

Unit8 A Surprise Party

○現在進行形の肯定文・疑問文・否定文、感嘆文の形・意味・用法を理解して、正しく書いたり話したりすることができる。
○今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。また、自分のことについて英語で答えることができる。
○教科書の内容を正確に読み取ることができる。

最終課題　即興Who am I？クイズで問題を出したり、答えたりできるようになる！

Unit8の自分の目標：感嘆文をつかった文章をすらすらかけて読めるようになる。

全体の評価基準	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	・場所を表す前置詞（by/under/on/in）や動名詞（～すること）、一般動詞の過去形を使って、自分のことについて正確に英文を書くことができる。 ・Unit5で学習した文法を使って、自分のことや相手のことについて聞いたり、話したり、書いたり、読んだりすることができる。	・相手が何をしているのか質問したり、質問されたことについて答えることができる。さらに、相手の返事に対して一言加えたり、答えるときに一文加えるなどして、より具体的に答えている。	・友達やALTなどのやりとりや授業の様々な課題に対して粘り強く取り組んだり、自分の考えを伝えたりしながら学習に取り組んでいる。 ・学習した表現を使って書いたり話したりするなど、毎回どんどん英語を使ってコミュニケーションをとっている。
B	・現在進行形や感嘆文の作り方や意味、使い方をほぼ理解している。 ・Unit8で学習した文法を使って、書いたり話したりすることができる。	相手が何をしているのか質問したり、質問されたことについて答えることができる。	・友達やALTなどのやりとりや授業の様々な課題に取り組んだり、自分の考えを伝えたりしながら学習に取り組もうとしている。 ・学習した表現を使って書いたり話したりするなど、いつもよりも多く英語を使ってコミュニケーションをとっている。

時間	日付	○学習の目標 ・学習内容	【学んで分かったこと】 ～ということが分かった・～ということが疑問だ ～を使って考えたら理解できた ～～のような考え方もできるのではないか。など	【学び方について】 時間のペース配分　学習するときに使ったツール 学習の仕方や方法（一人で・ペアで、教科書で・ワークで・インターネットでなど）　などを記入しよう
7	12/11	○Who am I？クイズに即興で取り組む	Who am I クイズをして、現在進行形の使い方と、聞き取ることが出来たかをしっかり理解できたのでとても良かったです。	自分で言っていなくても、聞き取る力をしっかり身につけることが出来たのでとても良かったです。
8	12/10	○Ｌｅｔ’ｓ Writeでグリーティングカードをジョン先生に送る！	ジョン先生に作る年賀状カードを英語でしっかり作ることが出来て良かったです。他の国のカードの作り方もしっかり覚えることが出来ました。	年賀状をしっかり時間に合わせて作ることが出来たので良かったです。
Unit８の振り返り		ユニット8の単元を学んで、感嘆文の使い方や現在進行形の使い方についてをよく覚えることが出来ました。現在進行形の使い方は少し出来ないと思うところがあるので、しっかりやり方から覚えられるように復習しておきたいです。		

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

岩沼市立岩沼北中学校（宮城県）【指定校】

【取組内容】 系統的・横断的な指導の展開による情報活用能力の育成

【概要】
本校では、「情報活用能力系統表」「情報活用能力年間指導計画」を基盤とした系統的・横断的な指導を展開することで、情報活用能力を段階的、計画的に育成しています。

【使用するアプリ 等】
iPadOS標準アプリ、Google系サービス　等

【活用の流れや工夫点、生徒の様子 等】
・情報教育全体計画に加えて、情報活用能力を各学年で身に付けるべき資質・能力の視点からまとめた「情報活用能力系統表」、情報活用能力と各教科の指導内容との関連を時系列にまとめた「情報活用能力年間指導計画」を作成し、各教科における系統的・横断的な指導の展開を図っています。
・授業では、全ての教科・領域でほぼ毎時間一人一台端末を活用し、基本的な操作技能や情報を活用する力の習得を図っています。
・総合的な学習の時間では、年に１回程度、外部講師を招聘して情報活用能力に係る授業を実施し、専門的な視点から学びを深めています。
・月に１回程度、生徒会情報委員会の生徒が主体となって情報モラルを考える活動を実施し、ICTを活用する上で必要なことに気付き、考えるきっかけとなっています。

２学年英語（情報の発信・伝達）

身近な話題について調べた内容を協働してまとめ、比較表現を用いて伝え合う様子。

特別支援学級（情報の整理・比較）

販売学習のCMソング作成に使用する歌詞を検討している様子。

外部講師による授業（情報モラル・セキュリティ）

情報委員会主催 情報モラル向上プロジェクト

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

岩沼市立岩沼北中学校（宮城県）【指定校】

【取組内容】 安全点検表のクラウド化による教職員間の情報共有と措置対応の蓄積

【概要】
本校では安全点検表をクラウド化することで、情報共有と記録の蓄積が容易になり、特に担当と管理職の負担軽減につながっています。

【使用するアプリ 等】
Googleスプレッドシート

【活用の流れや工夫点 等】
- 点検者はタブレット端末と点検用具を持って点検を行い、結果をGoogleスプレッドシートに入力をして報告します。
- 安全点検表をクラウド化したことで、これまでは点検者や管理職しか知らなかった情報が教職員間で共有できるようになっています。
- 不良箇所があった場合は、写真を撮影し、「不良箇所集計表」にその画像を掲載します。
- 管理職や業務員はその場に行かなくても、不良箇所の概況を把握できるようになっています。また、記録として蓄積されるため、特に担当と管理職の負担軽減につながっています。
- 冬季期間中に行う「火気点検表」についても同様にクラウド化を行ったことで、消化時刻の入力が時短化され、共有と蓄積が容易になっています。

不良箇所は点検者が撮影し、画像をアップロードする。